

第2回栃木県減災対策協議会

議事概要

- 1 開催日時 令和5(2023)年2月9日(木)
- 2 開催場所 書面開催
- 3 出席者(書面送付)
 - 【構 成 員】 栃木県知事、県内全市町長、県土整備部長、県民生活部危機管理課長、県土整備部河川課長、県土整備部砂防水資源課長、全土木事務所長、宇都宮地方気象台長
 - 【オブザーバー】 利根川上流河川事務所、渡良瀬川河川事務所、下館河川事務所、鬼怒川ダム統合管理事務所、常陸河川国道事務所、思川開発建設所、日光砂防事務所
- 4 配布資料
 - ・ 議事次第
 - ・ 議事概要説明書
 - ・ 資料1 栃木県流域治水プロジェクト
公表用資料の確認について(普及啓発リーフレット)
 - ・ 資料2 栃木県減災対策協議会の今後の進め方
- 5 議事要旨
 - (1) 審議事項について(資料1)
 - ・ 栃木県流域治水プロジェクト 公表資料の確認(普及啓発リーフレット)について審議した結果、構成員からの一部意見を考慮し修正して決定された。
 - (2) 報告事項について(資料2)
 - ・ 栃木県減災対策協議会の今後の進め方について報告した。
 - (3) 構成員からの意見
意見(佐野市)
 - 【資料1-1及び資料1-2】の「令和元年東日本台風による栃木県の被害の様子」に、秋山川の被害状況の写真を掲載しているが、他の2河川と異なり「流域治水の取組効果」に秋山川がなく、五行川のものが掲載されている。整合性について疑問がある。

回答(県土整備部河川課)

「令和元年東日本台風による栃木県の被害の様子」は同台風における代表的な被災箇所の

写真を掲載しています。「流域治水の取組の効果」は令和元年の被災箇所に限定せず、一般県民に流域治水を普及啓発するうえで理解を得やすい、取組効果の高い河川を代表河川として掲載しています。

意見（栃木土木事務所）

「浸水想定区域の諸条件」は次のとおり、書き換えることを提案します。

本シミュレーションでの計算条件 ※枠タイトルの変更

- (1) この浸水シミュレーションは、令和元年東日本台風時に県内で観測された降雨を平均（346.6mm/24h）し、その降雨が県全域に均一に降ったと仮定した場合に、各河川での流域治水の取組前後での浸水状況を予測し比較したものであり、県内各地の令和元年東日本台風による実績降雨に対する浸水シミュレーションではありません。
- (2) また、このシミュレーションでは、堤防の決壊による氾濫、支川の氾濫（一級河川を除く）、内水による氾濫等を考慮していません。従って、令和元年東日本台風時の浸水実績やこれまで公表されている浸水想定区域図とは一致しません。また、浸水が想定される区域外においても、浸水が発生することや実際の浸水深と異なることがあります。
- (3) 流域治水の取組としては、今後の河川整備に加え、田んぼダムやため池貯留、公共施設貯留や各戸貯留、浸透ますや透水性舗装（道路・駐車場）の対策を想定していません。

回答（県土整備部河川課）

意見を踏まえて下記の通り修正いたしました。

「浸水想定区域図の諸条件」を「今回の氾濫解析を行った条件」に修正

(1) 下線部を追加

流域治水の取組前を示した図は、令和元年東日本台風相当の雨が県全域に降った場合に浸水が想定される区域を示しています。[対象降雨：346.6mm/24h]

この浸水想定区域図は、現時点の各河川の河道の整備状況を勘案して、各河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションしたものです。

なお、令和元年東日本台風による実績降雨に対する浸水シミュレーションではないため、令和元年東日本台風時の浸水実績とは一致しません。

(2) 下線部を追加

流域治水の取組後を示した図は、今後の河川整備に加え、田んぼダムやため池貯留、公共施設貯留や各戸貯留、浸透ますや透水性舗装（道路・駐車場）の対策を実施した場合を想定しており、その他の対策は見込んでいません。

(3) 下線部を追加

なお、このシミュレーションは、河川の決壊による氾濫、支川の氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水が想定される区域以外においても浸水が発生することや想定される水深が実際の浸水深と異なることがあります。

また、想定する降雨の規模が異なるため、これまでに公表されている浸水想定区域図とは一致しません。